



水草で覆われた水面を泳ぐカイツブリ親子



水鳥にぎわう 井の頭池

2016年の春から夏にかけて、井の頭池はかわいいヒナを連れた水鳥たちにぎわった。昨冬のかいぼり以降、水鳥たちの食物となる在来の小魚が増えたり、水草が再生したためである。

水鳥の中でも、特に増加した種が、小魚やエビを食べて暮らすカイツブリである。井の頭で5組のつがいができ、合計20羽のヒナが生まれた。これだけのヒナを育てるには、ヒナが食べられるサイズの小さな魚がたくさん必要だ。昨冬のかいぼりで多くの外来魚を駆除した結果、モツゴなどの在来の小魚が回復したため、繁殖数が増えたのだらう。

このほか、バンは2つがいが繁殖し9羽のヒナが生まれた。カルガモは井の頭池周辺で生まれたものを含め、合計40羽以上の幼鳥が池のいたる所で観察された。

カイツブリ子育て奮闘記

あるカイツブリ夫婦の子育ての様子を写真で振り返ります。

4月	5月	6月	7月
下旬	5月1日	5月22日	初旬
落ち葉や水草を集めて、水面に巣を作り始めました。	1つめの卵を確認! 約20日間の抱卵期間が始まりました。	待望のヒナ誕生!	ヒナを育てながら2回目の繁殖を始めました。
			
	次々と卵が孵り、最終的に5羽のヒナが生まれました。	親鳥から小魚をもらってヒナはすくすくと育ちました。	大きくなった1回目のヒナ(7月7日撮影)
			新たな5羽のヒナが確認されました!

～秋冬のにぎわい～

もふもふカイツブリ

すっかり冬羽に衣替え。この時期でも複数羽が泳ぎ回り、にぎわっています。



ようこそ! ハジロカイツブリ

井の頭池では初登場。偶然立ち寄ったのですが、意外と長居してくれました。



水草もぐもぐ オオバン

頻りに潜水し、水草や緑藻を食べています。イノシラフラスコモはひと味違う!?





開催決定! 井の頭池 かいぼり報告会

未来へつなごう、湧水の池

協働で行われた「かいぼり」によって、さまざまな在来種が回復しつつある井の頭池。かいぼりの成果を確認し、これからの自然再生について考えます。

2017年1月28日(土)

13:30~16:30

(開場 13:00~)

三鷹市公会堂 光のホール

定員 350名 (申込先着順)

参加費無料

詳細・申込はホームページへ!

<http://inokashirapark100.com/>

井の頭100

問い合わせ 認定NPO法人 生態工房

申込先 電話・FAX: 0422-27-5634

○基調講演

井の頭池の湧水復活に向けて

守田 優 氏 (芝浦工業大学工学部教授)

○調査報告

井の頭池周辺の地下水位について

國分邦紀 氏 (東京都土木技術支援・人材育成センター)

○井の頭池モニタリング報告

よみがえる!! イノカシラフラスコモ! 水草再生ものがたり

内山 香 氏 (東京都西部公園緑地事務所)

きらめく水辺 増える増える在来魚

八木 愛 氏 (認定NPO法人生態工房)

水鳥のにぎわい~すくすくカイツブリ~

岩本愛夢 氏 (認定NPO法人生態工房)

○井の頭池活動報告

田中利秋 氏 井の頭かんさつ会

山口行弘 氏 井の頭かいぼり隊

Topics

初企画★“チョコッとかいぼり隊”大好評!



▲「よいしょ!」隊員と一緒にワナを引き上げます



▲何が捕れたかな?

井の頭100祭と井の頭池生きもの博に新企画「チョコッとかいぼり隊」が登場!
かいぼり隊と一緒にアメリカザリガニ防除のワナを引き上げて、捕れた生きものを観察・記録しました。これまでに開催した5回すべてが定員になるほどの人気ぶりでした。

いけいけ! かいぼり隊

イクメン イクガール
~池男&池女、水草を調べる!の巻~

井の頭かいぼり隊が行っている池のモニタリングに、いくつかの新メニューが加わった。今号では水草調査の様子を紹介する。
調査では、池に生えている水草の種類ごとに被度(池底を覆っている量)を測定する。フローターとよばれる小型ボートに乗り、調査範囲の水中を箱メガネで観察した。
調査を行った5月と10月は透明度が高く、池底までくっきり見えるという好条件。しかし、観察するのは案外難しい。樹木の葉が沈んでいて慣れるまでは、水草か?と迷ってしまう。そして隊員を待ち受ける伏兵が「船酔い」だ。操船に慣れているはずの隊員も、箱メガネを覗き込みながら浮かんでいると、だんだん気分が悪くなってくる。それでも、



▲水中を覗き込む隊員たち



こんな感じに見える

『水草再生』というかいぼりの効果を自分の目で確認できて、うれしい体験であった。
そんな水草調査、次回は春に実施する予定だ。